

## 第4回海とくらしの史料館のあり方検討委員会 会議録

日 時 令和3年11月15日（月）16時00分～19時00分

会 場 上道公民館 集会室

出席者【委員会委員】

石原 幸雄委員（鳥取県水産試験場 場長）

景 愛子委員（境港水産振興協会 お魚ガイド）

古橋 剛委員（境港市観光協会 事務局長）

赤石 周平委員（境港青年会議所 理事長）

築谷 直人委員（境港市小学校校長会 会長）

面谷 明俊委員（海とくらしの史料館利用者代表）

【事務局】

市教委（松本教育長・松本生涯学習課長・竹内文化体育係長・松本主事）

市産業部（坂田観光振興課長）

市文化振興財団（佐々木常務理事・佐々木次長・大池館長）

欠席者【委員会委員】

檜山 盛生委員（境港総合技術高等学校 教諭）

渡部 万里子委員（海とくらしの史料館利用者代表）

島田 洋子委員（海とくらしの史料館利用者代表）

<日程>

1. 開会
2. 教育長あいさつ
3. 報告事項
  - （1）前回までの会での出た主な意見について
  - （2）小学生対象アンケートについて
  - （3）高校生対象ワークショップについて
4. 協議事項
  - （1）関係施設や水木しげるロードとの連携について
  - （2）にぎわい作りについて
  - （3）施設の今後のあり方について
5. 提言書について
6. その他
7. 閉会

<会議録（要旨）>

◆ 1 は省略

◆ 2. 教育長あいさつ

教育長 この会も今回で4回目を迎えた。前回は5月31日に島根大学の博物館の視察に参加をいただいた。会議としては3月末以来で久しぶりの会となるので、これまで委員のみなさまからいただいたご意見を確認していただく意味で過去の会の意見を最初にふりかえっていただきたい。また最近「海とくらしの史料館」に対する子ども達の意見を聞くために、高校生対象ワークショップ、小学4年生を対象としたアンケートを実施しておりますので、そういった意見も参考にさせていただいて、今回はメインとなる協議をしていただきたい。議題としては次第に挙げている通りである。限られた時間ではあるが、ご意見を頂戴したいと思います。

◆ 3. 報告事項

（1）前回までの会で出た主な意見について

- ①海の展示について
- ②くらしの展示について
- ③他機関との連携について
- ④にぎわい作りについて
- ⑤建物の改修について

（2）小学生対象アンケートについて

（3）高校生対象ワークショップについて

事務局 上記（1）～（3）について説明

（委員からの質疑）

委員 （2）の小学生対象アンケートで、小学生対象アンケートで、当館へ行ったことがあるかどうか、との質問があるが、これは校区ごとの結果があるか。学校によっては校内行事で行くことがあるので、地域的傾向が大きいと思うが…。

事務局 今回はクロームブックの機能を使い、6校まとめてアンケートを取ったので校区ごとの結果は出ていない。

委員 私は境小学校の校長なので、アンケートとは別で4年生のところにいって生徒に聞いてみたが、実際2回以上行ったことあると手挙げた子が当校だけでも26名以上いた感じだった。今回はクロームブックを使用してのアンケートだったので、回答間違いをした子もいるかもしれないが、校区にある施設なので境小学校としては8割以上の子は複数回行ったことがあると思う。

また近年はコロナ禍や天候の関係で行けていないが、全校遠足でお台場が最終地点でその前に海とくらしの史料館に入って見学をしていたので、境小の子は卒業までには何回かは行けていると思う。なのでこの結果を見ると、やはり遠方の地区の子が行けてないのかなと思う。

- 委 員 以前は、県内や岡山の学校から市場へ見学に来ていて、市場―漁協―当館っていうのが定番だったので知名度としては結構あったと思う。
- 委 員 当館のことを知っているが、行ったことがないという人は結構多い。市内の小学生も、近年はコロナの関係かもしれないがそもそも見学に来ていない。米子市や鳥取の方から来られることはありますが、それが当館に繋がっているかというところではない。市場を紹介する中で、当館のことも紹介してはいるが、学校はあくまで学校の行事という感じ。
- 委 員 来年新しくできる市場にも展示スペースを設けて、当館へ繋がれたらと思っている。
- 委 員 最近は教育旅行や修学旅行等で当館がコースに入ることはあるのか。
- 事務局 先月の話になるが、コロナの関係で県内の修学旅行はすべて県内となり、東部の学校は20校が来館した。それで先月1か月の入館者数が4,490人入っていて、これは過去10年のうち、単月で言えば最多。残念ながら西部の学校は、米子市の学校が7校ほど来たくらいだったが、今年に限って言えば、かなり多くの学校にきていただいた。
- 委 員 今年多かったのはやはりコロナのせいという感じですね。
- 事務局 そうですね。恐らく県外が解禁になれば、東部の修学旅行で西部には来ないと思う。
- 委 員 境港の小学生が当館へ行くかどうかはそれぞれ学校毎に決めるものか。
- 委 員 そうです。ただ学校もカリキュラムに沿って決めているので、当館の展示物で学習の課題が解決するかっていうとそういう展示ではない。けれど、昔の道具を見に来て、そして魚も一緒に見るということを以前はしていた。今はコロナで行けていないが。ただその分館長さんに、学校へ直接来ていただいて出前授業をしていただいた。
- 委 員 社会科の中では水産業の盛んな地域ということで長崎港が載っている。まあ実際に長崎に行く必要はないので、それこそ境港の市場であったりとか、加工場とかに見学を従来は行っていた。「私たちの境港市」という本を市の社会学会で出版していて、その中には民具はもちろん、水産業などいろいろなことが載っており、机上で学習しようと思えばこの資料で十分学習ができる。ただ校外学習ができる環境であれば多くの学校が出かけていると思う。
- 委 員 くらしの一部分になるかと思うが、伯州綿についてはどのように学習するのか。
- 委 員 すべて把握しているわけではないが、社会というのは総合的な学習なのでテーマの中でどこに焦点を当てているかで、机上での学習だけの学校や、実際に伯州綿を栽培する学校などさまざま。
- 委 員 先ほどのアンケートを見ると、圧倒的に1回行って終わりという子が多い。これは学校の行事で行っただけという子が多いのが現実だと思う。学習施設ということでそういう部分はあるかと思うが、興味をもってそのあと自分で能動的に来るような施設でないといけないと思う。当館の目標をどこにもっていくのかということにも関わってくると思うが、学習施設なのか、観光施設なのか。その点について市としてはどのように考えているのか。

事務局 学習施設・観光施設どちらとしても可能性として広くとらえて検討していったほしいと思っている。はじめからどちらかありきという話ではなく、どちらもそれぞれの良さがあると思うので、それをこの検討会の中でしていただけたら。

極端な話、学習施設ということであれば入館料も取らなくて良いということもあると思うし、観光施設ということであれば当然入館者数や利益についても考えていかなければならないので、それによって組み立ても変わってくる。

委員 学習施設として考えた時に、複数回行かない理由として、新鮮さや変化がない。なぜかという研究がされていないから。とにかく運営と管理。最近は館長の努力で新しい情報や展示も見受けられるが、根本的にそこをサポートする体制ができていない。人材の問題が大きい。そこを確保するのは重要ではないかと感じる。

委員 研究ということであれば、学芸員とは言わないまでもある程度精通した人が必要で、例えば海や魚の研究ということであれば、当然いろいろ情報は更新されていっている。そういったものがある程度反映できる人、あるいは来館者に興味を持ってもらって研究・調べるところのきっかけを作っておくという意味では体験ものがあると良い。

委員 以前かにっこ館に勤務していたが、当館も含めこういった施設は、正直中学生以上はあまり来ない。子どもだけで来るとしたら近所の子どもが連れ立って来るくらいで、基本は親と来る。なので、ターゲットにするとしたら小学生。それも低学年で、せめて4、5年生。それでなんで来てもらえるかと思ったら、魚を触ったりなどの体験コーナーがあることだったり、無料でお母さんが気軽に連れていける場所であること。もちろん学習ができることは大切だが、まず来てもらうって意味では、親子で楽しめる体験型の何かがあると良い。

委員 ・学習施設ということを考えると展示内容も含め不十分であるが、観光客も含めた人が来てくれる施設として、学校の方では学習の成果発表の場として利用している。  
・お母さんが小さい子どもを安心して気軽に連れていける施設だと良いと思う。過去の議事録にもあるが、そこでタッチプールとかの体験ものがあったって、子どもたちを引き付けることができれば、また連れてこようかなと思ってもらえる。そうして何度か来るうちに子ども達が愛着を持って、また中学生・高校生、社会人になってからでも境港にはああいう珍しい施設があるよって、知り合いに伝えたりして、そういう風に広まっていくと良い。

#### ◆ 4. 協議事項

##### (1) 関係施設や水木しげるロードとの連携について

委員 ・過去、水産市場からシャトルバスが出ていた時代もあった。それは恐らく企業さんが独自でされたものだと思うが、例えばはまる一歩バスの運用の仕方、関係機関を繋ぐような便があっても良いのではないかな。

委員 ・他の関係機関での各会議にも参加しているが、どこの会議でもこれらをどう繋げていくかは議題に上がる。それぞれの施設にお互いをPRする共通ブースを

作っても良いのではないか。

- ・市場の方には駐車場はないので、そうすると台場公園の駐車場に止めて歩いてこられる方は多い。

委 員 ・歩いて来られる方もおられるが、それは明確な動機があるから。それが当館にもあれば良いのでそこをどう作っていくか。

- ・バスを走らせるにも、お客さんが多い時期はともかく、閑散期には利用がほぼなくなってしまふ。以前あったシャトルバスとかもそういった理由で走らなくなってしまったのではないか。

- ・距離的に言えば、台場公園・当館からなら市場との行き来については動機付けさえちゃんとしていれば連携できると思う。例えば、何かイベントやスタンプラリー等、両施設に行かないと成立しないものがあっても良いのではないか。

委 員 ・PRブースっていうのはとても良いと思う。チラシとか紙媒体の物をあまり見ない方も一定数いて、そういう人でもそのコーナーを見て一目でどんな施設があるかわかるっていうのは新しい伝え方としてインパクトがあるし、きっかけ作りとしては意味がある。子どもは最初あまり興味がなくても、行ってみたら楽しめる能力がある。まずは足を向かせることが大事。

- 委 員 ・大人でもあつと思うはく製がたくさんあるので、そこを活かしていくべき。あとは、以前から議題に出ているが展示の仕方。どのように表現するのか。
- ・おさかなコンテストは当館の来場者のみが応募できるのか。

事務局 来場者でなくともはがきで応募することができる。

委 員 当館でスケッチするとかそういったことはないのか。

事務局 当館には流し台がなく、水彩画を描く環境がない。

委 員 体験型のひとつとしてはく製を見て描けたら良いと思う。例えばそこで描いて終わりではなく、描いた魚の生態を調べてみるとか。

委 員 かにっこ館では、イベント期間を設けてスケッチをしてもらい、その絵を展示するようなのは人気があった。投票させたりすると余計にみんなが見る。それで何名かには賞品を出したりして。水彩じゃなくて色鉛筆とかでも良い。イベントのやり方の一つとして、絵はとても良いと思う。

委 員 行ったら子どもたちに刺さる部分は絶対あると思うけれど、それを伝えきれていないのが現状。パンフレットにしても、さっきのPRブース等にしても、何が子どもたちに刺さるのかを考えてやらないといけな。

委 員 境港は他のことに関してもそうだが、個々でPRをしていて、一見して市内でどんなイベントがあるかっていうのが分かりにくい。

委 員 観光協会では今HPを新しくしているところで、まだ充実ができていないが、今考えているひとつとして、市内のモデルコースを作って掲載したいと思っている。例えば友人と、家族と、ひとりでなど、パターン別のコースを複数つくり、こうい

うところをこのくらいの時間で回れますよっていうのを今まとめている。そういうのも活用してもらって、行く前にはネットで情報収集ができて、現場ではさっきのPRブースみたいなもので情報収集ができる形にできたら良い。

(2) にぎわい作りについて

- 委員 ・市民の利用に関して、市民の入館料を無料にするというのは一つの手段ではないか。直接イベントという形でのにぎわい作りではないが、その後押しになる。
- ・市民が無料ということであれば、イベントの形も変わってくる。改築の話も絡んでくるが、2階を増設した時にそこを利用する学習発表会などをした時に、そこに来る人だけは無料、ほかの人は有料、だと少しややこしい。市民は無料ということであれば、その問題や当館の手間も減るのではないかな。

委員 実際、入館料は館の運営にどれくらい寄与しているのか。あまり大きくないのであれば、本当に市民無料にしてしまうのも良いと思う。ただ、一回無料にしたら、その後有料に戻すのは難しい。

- 事務局 ・概ね運営費の3割くらい。入館料の金額としては、令和元年度が年間400万円ほど。ただし、その中で市民からいくらもらっているかと言うと、微々たるものである。市民の方は手ぬぐいひらひらのイベント等、無料の日を狙って来られることが多い。県外からお客さんが来られた時に引率で渋々入館料を払って入られるということはある。
- ・(館長)個人的には、入館料の無償化もしくは引き下げはとても良いと思う。特に子どもについてはぜひ検討してもらいたい。

- 委員 ・今年、各公民館でサメ展が開催されていたが、私が聞いたところでは見に行った各学校の子どもたちが非常に喜んでいと。展示と比べたらはるかに小さいはく製でもとても喜んでいと聞いたので、もし無料でもっと大きなはく製たちを見られると知ったら、興味を持つ子どもは絶対にいる。
- ・サメ展に来られた一般のお客さんがどれくらいいたかは聞いているか。

事務局 盛況だったのは間違いないですが、今手元にデータはないです。ただ、地域の方も多く来ていただいたのは間違いない。

委員 そういった方たちも市民無料ということであれば絶対来られますよね。

事務局 実際サメ展をさせていただいた時に、リピーターというか、当館へはく製を見に来館していただいた方は結構おられた。6、7月は入館者数も増えていた。

委員 年間パスポートはありますか？

事務局 大人のみですが、年間1,000円であります。金額としては、3回分の料金より少し安くなるくらいが標準。今登録していただいているのがだいたい130人程度。主に買われるのは、お魚が本当に好きな方だったり、あとは幼児を連れているお母さんが多いです。

委員 市民以外のところで現行に近い収入が得られるということであれば、市民の入館

料は無料とすることでのぎわい作りというか、入館者数を増やすことはできるのかなと思う。

(3) 施設の今後のあり方について

委員 関係施設との連携を図って集客を増やすということを考えるのであれば、観光という側面も無視できないと思う。そのバランスは難しいところであるが、観光施設も兼ねた学習施設という位置づけになるのかな。あとは、先ほど出た市民無料ということになれば、市民の方にも普段から訪れてもらえると思う。

委員 収蔵庫の件で、以前話に出た旧誠道小学校を利用するのは難しいと聞いている。そうすると、駐車場部分については増築エリアとするのは難しいという話だったが、すべてを増築は難しくとも、今軒をだしている4, 5坪の範囲だけでも収蔵庫を拡張するような形が取れば、収蔵庫にももう少し余裕ができると思う。

委員 実際に展示するものだけではなく、収蔵スペースは必要だと思う。だが、まずは今ある施設の中が有効的に使われているのかっていうのを検証すべき。これから改築に向けて検討していく中で、実際にどのくらいのスペースがいるのか、それはこれから提言を出した後に、事務局の方で検討していただくことになるのかと思います。

事務局 過去の意見の中で、くらし部分の展示についてどうしていくかというのが大きな議題になっていた。くらしの中でも、農具もあれば、漁具や伯州綿もあるので、そのあたりの方向性をまとめていただけたらと思っております。

委員 収蔵スペースと関係してくると思う。すべて同時に展示するっていうのは、スペース的に不可能で、無理やりしても魅力的な展示にはならない。民具が十分にあればという前提ではあるが、例えばシーズン毎に分けてであればできるのではないかなと思う。ただし、そうするとその期間以外は収蔵庫にしまっておく必要があるので、収蔵庫の拡大は必須となる。

委員 くらしの展示についてのニーズはどのくらいあるのか。

事務局 ほぼないです。年に1, 2回民具が好きな方が見に来られるくらい。その他唯一ニーズと言えるのが、小学校の授業で利用されるくらい。これがだいたい1月から3月頃になるので、ちょうど当館の閑散期と重なっている。なので、1月から3月は民具の展示期間とするという形はできると思う。

委員 今コロナの関係で校外学習ができず、昨年から館長さんに出前授業をしていただいている。学校としては、館長さんに持ってきていただいて、実際に民具を見ながら説明を聞けるっていうのはとてもありがたいこと。館長さんが忙しくて、とても行けないということであれば仕方がないが、今の形で来てもらえるとそれで充分学習ができる。

委員 海に関するくらしの展示として、新しくできる市場の展示の内容によって、当館でどのようにすべきかも関わってくると思う。伯州綿に関する展示はあっても良

いと思う。境港は、伯州綿と謳ってはいるが、伯州綿についての情報を見ることができるところがないので、それを当館ですというのも良いと思う。

委 員 今の民具があまり揃っていない状態で中途半端に置いていても、ニーズがないのであればあまり意味がない。展示するのであれば、テーマを絞った形でやる。それは伯州綿でも良いし、展示に限らず何か体験ができるコーナーであっても良いのではないか。

事務局 綿に関してですけど、これに関しては境港市だけではなくて、米子市も含めた弓浜部の文化財ということもありまして、エリア的に捉えて展示や保存を考えていく必要があるという議論も別で動いておりますので、そこでの議論も踏まえた総合的な判断が必要になるのではないかとというのが事務局として考えているところです。

#### ◆ 5. 提言書について

事務局 「提言書目次案」について説明

※委員から特に質疑なし

事務局 「改修イメージ図」について説明

委 員 子どもたちにとってみなと丸の人気はとても高く、完全撤去は寂しく思える。

事務局 ・元は外に別の船があったが、風雨にさらされ、壊れてしまった。  
・屋内で船に乗れるというのはとても貴重な機会であるが、みなと丸については補修できるかどうかは定かではない。

委 員 中庭の遊具については、近くに台場公園もあるので、普通の遊具を配置するよりは、例えば海浜公園とかにあるような、そこまで大きくなくても良いが船を模した遊具があると良いのではないかと検討してもらいたい。

#### ◆ 6 は特になし

#### ◆ 7 は省略